

教員名	永原 恵三 (NAGAHARA Keizo)
所 属	文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現講座
学 位	博士 (文学) (1999 大阪大学)
職 名	教授
URL/E-mail	nagahara@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

合唱 / 観光 (ツーリズム) / キリスト教音楽 / 柴田南雄

## ◆主要業績

総数 (5) 件

- ・2005年6月 共著書『都市の祭礼ー山・鉦・屋台と囃子ー』(京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 研究叢書I)、植木行宣;田井竜一編、「祭礼と観光のダイナミズムー鹿角市の花輪ばやしを例としてー」、pp.433-458、東京:岩田書店。
- ・2006年3月 論文「日本におけるカトリックの新しい典礼聖歌ー高田三郎と新垣壬敏の作曲による聖歌を中心にー」、『礼拝音楽研究』、第5号 (キリスト教礼拝音楽学会)、pp.33-53.
- ・2006年3月 CD『よるこび歌えアレルヤー復活徹夜祭の典礼』、演奏:アンサンブル・アルボス、東京:サンパウロ

## ◆研究内容

1) 音楽学の分野では、3つのジャンルで研究している。①合唱活動の存在論的研究と柴田南雄の合唱作品研究。②観光と音楽についての研究。海外の観光学研究を踏まえ、日本の民俗芸能などの事例を調査し発表した。調査地域は秋田県鹿角市(花輪ばやしと大湯大太鼓)、北海道江差町(江差追分)。③カトリックの典礼聖歌に関する研究。カトリック教会の聖歌隊指揮者と独唱者を担当。第二ヴァチカン公会議後の現地語聖歌のあり方を日本の事例について研究。またヨーロッパ中世・ルネサンスの聖歌についても研究。

2) 演奏の分野では、3つの立場で研究と実践を行なう。①合唱指揮者。男声合唱団を指導し、発声指導法や音楽作りを研究。発声指導に大きな成果あり。②声楽アンサンブルを主宰。ルネサンス期のポリフォニーと現代の典礼聖歌を中心に演奏を研究。③テノール独唱者。ドイツリートおよびバロック音楽における演奏を研究。発声法と演奏法を大阪音楽大学名誉教授の永井和子氏のもとで研鑽している。

## ◆教育内容

学部: 1, 2年生向けの音楽文化概論Iおよび音楽学概論IIで、音楽学の基本的概念、考え方、方法などを提示するとともに、西洋音楽史の中世からルネサンスまでの時代を英語の文献で概観する。3年生向けの比較芸術文化論では近年の音楽学文献(英語)を演習形式で輪読する。本年は Bonnie Wade "Thinking Musically"(2004)。4年生向けの比較芸術文化論演習では卒業論文作成のために毎回数人ずつ発表し、論文の内容を検討する。3年生向けの指揮法はグループレッスンだが、クラス全員が1回ずつ前で指揮をし、それにコメントをする。斎藤秀雄の方法を用いる。

大学院:(博士前期)音楽学特論(演習)は近藤教授と共同で修士論文に向けて全員のゼミ。民族音楽学特論(演習)は音楽学専攻の学生を中心としたゼミ。音楽学の近年の論文等を参考にして、各自の研究を発表。博士後期の学生も聴講するので20人強の受講生がいる。(博士後期)後期の学生のみでのゼミでは近年の英語論文を輪読。他に個人指導多数。

## ◆Research Pursuits

---

1 Musicology:1)the study of the ontology about the choral activity, especially about Minao Shibata's choral works. 2)the relationship between tourism and music, especially regional performing arts. 3)Catholic church music, especially the liturgical music in Japan.  
2 Music performance:1)choral conducting. 2)Dirigent of vocal ensemble singing especially Catholic church music. 3)Tenor solo singer singing especially German lieder and baroque music.

## ◆Educational Pursuits

---

Undergraduate course: musicology; lectures of key concepts and comprehensive knowledge of this field, and Western music history (medieval through renaissance period). conducting method.  
Graduate course: musicology(advanced and applied including ethnomusicology).

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

- 1) 合唱のトポロジーについてと、柴田南雄の合唱作品の総括を研究成果として単行本で刊行。
- 2) 観光学の古典とされる D.MacCannel の"The Tourist"についての解説本を刊行（共著）。
- 3) スペインの16～17世紀の音楽における東洋と西洋の邂逅に関する研究。
- 4) スペインのカトリック音楽、特にルネサンス期の合唱音楽の演奏研究。
- 5) テノール独唱者として、J.S.Bach のカンタータと受難曲の演奏研究。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

私は音楽学者と演奏家との二足のわらじを履いています。西洋音楽ではバロック以前の音楽に重要性を見だし、とくに合唱に関心を持っています。演奏家としては西洋音楽を専門としていますが、音楽学者としては、西洋だけでなく諸民族の音楽や国内の民謡や民俗芸能にも関心を持ち、それらに応じた研究の仕方や研究成果を学び、またそれを学生の皆さんと共有しています。

お茶の水女子大学の音楽学は日本でも有数の研究拠点で、学会でも高く評価されています。大学院のゼミは実にさまざまな音楽研究者のタマゴたちが集まり、熱い議論をして切磋琢磨しています。

音楽について、しっかりと考えて、研究し演奏していく姿勢をもっている人に、来ていただきたいと思っています。音楽は知的産物なのですから。